

かさおか



『防災学習会を開催』



第一回「防災学習会」開催

平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓にして、笠岡地区まちづくり計画に掲げていた「防災学習会」を3月4日に開催しました。

この日の参加者は65名、約2時間の日程で、防災士の坂本亮平さんから地震の備えや発生時の対応などを聞いたあと「キッチンペーパーと輪ゴムの簡易マスク」や「新聞紙のスリッパ」など、災害時に役立つグッズを作りながら震災に対する思いを新たにしました。

そして、災害が発生した時に「自分のことは自分で守ること」が一番大切なことを改めて認識しました。



4月の 行事予定



- 4月 4日(水) 18:30～
地域担当職員との会議を開催予定
- 4月11日(水) 18:30～
30年第4回総務部会を開催予定
- 4月13日(金) 14:00～
平成29年度出納検査を予定
- 4月25日(水) 14:00～
30年第2回くらし部会を開催予定

『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所：笠岡市笠岡2627番地

電話：63-5949

Fax：75-0101

E-mail：zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日：月・水・金曜日の

14時～17時まで

『6年生を送る会』



笠岡市立笠岡小学校



6年生を囲んで、1年生による「ダンス」



校長先生の話

3月2日の予定でしたがインフルエンザの影響で3月7日に延期され、体育館で6年生のお兄さんやお姉さんの卒業をお祝いしました。約2時間のプログラムは5年生が司会進行、クイズやゲーム遊びに続いて6年間を振り返ったスライドショーを楽しみました。そして、在校生から感謝の言葉をそえてプレゼントが贈られ、全員で「ありがとう、そしてさよなら」を合唱しました。また、6年生は「旅立ちの日に…」を合唱してこれに答えました。

プログラムの最後は、在校生全員でアーチを作って6年生を送り出し、チョッピリ寂しかったけれど、みんなで楽しい時間を過ごしました。

家で食べるごはんでは
いちばんおいしい
食べ物は何ですか？



ご卒業おめでとう

笠岡市立笠岡西中学校

春の日差しが眩しい3月14日、体育館で第71回卒業証書授与式が行われ、卒業生94名(男子44名、女子50名)が思い出の学びやを巣立ちました。

卒業の歌「3月9日」



卒業証書授与



笠岡市立笠岡小学校

3月20日貫読講堂で卒業証書授与式が行われ、卒業生48名(男子30名、女子18名)が6年間の思い出が詰まった学びやを巣立ちました。

そして、いよいよお別れの時に空からポツポツと涙雨が... 先生方や在校生の見送りを受ける姿からは、にこやかで清々しい表情が感じられました。



自分色に輝いて！
— 行事予定 —

★4月9日(月)笠岡小学校入学式

★4月10日(火)笠岡西中学校入学式



桜花爛漫の好季節を迎えました。
今月は文化部会の活動の中から「かさおか自慢・子ども新聞 第21号」を紹介させていただきました。
「子ども新聞 第22号・第23号」は来月号で掲載の予定です。

編集後記

I・M



『春の交通安全県民運動』
「交通ルール 守るあなたに ありがとう」
をスローガンに春の交通安全県民運動が展開されます。
交通ルールをよく守って事故のない明るい地域づくりにご協力をお願いいたします。

ま じ 自 己 新 聞 お 子 ども 新聞

第21号

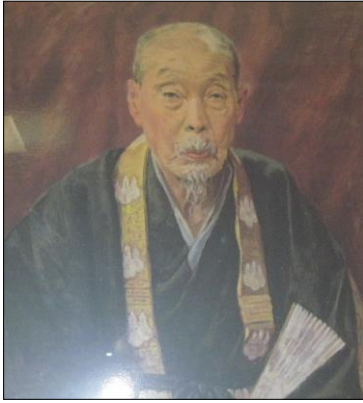
笠岡を見守っている

偉人さん

津田 白印さんって誰？

津田白印さんは、今から百五十五年前に笠岡の浄心寺で生まれた。お坊さんになるため、十八才のころに九州の学校で難しい勉強をした。また、有名なすみ絵の先生について絵を学び画家としても修行を重ねていった。そして、三十才の時、罪をおかした少年を教育する仕事についた。そこでは、ためになる本を紹介したり、楽しい話を聞かせたりした。少年達がおだやかな気持ちで落ち着いて生活できるように手助けをする先生だった。自分のことよりも人のことを思いやる優しい心を持った世話好きな人だったみたいだ。だから、今でも「白印さん」とさん付で呼ばれ、笠岡のみんなに親しまれている。

(六年 森兼 慧)



龍谷高校にかざってあった
白印さんの肖像画

孤児に救いの手をさし伸べて

白印さんは一九〇〇年一月に、富岡の本林寺(今の富岡公民館上)に、身寄りのない子供が生活できる施設「甘露育児院」をつくった。この施設では子供達の生活を支えると同時に、独立したときに役立つような生活の指導をした。一九〇六年、異常気象のため東北地方で作物の育ちが悪くてこまった。白印さんはその様子を見るため現地に行った。そして、身寄りのない孤児一〇八人を弟子たちと共に船や馬車を使って笠岡に連れて帰った。ところが、急に子供の数が増えたので本林寺の中ではきゅう屈になり、みんなの知っている浄心寺に引っ越しをした。育児院の暮らしはお金がたくさんかかったので、自分で描いた絵や習字を買ってもらいながらみんなの生活を支えていた。

(六年 時光泰斗)



浄心寺

女子教育につくした人

百年ほど前、女子は学校に行きにくいということが問題になっていた。当時、笠岡の女学校は、笠岡高等女学校(現・笠岡高校)があっただけで、みんなが勉強出来なかった。このため、白印さんは六十二才の時、浄心寺に淳和女学校を設立し、女子が社会に出てこまらないように、洋裁など生活に必要なことも教えた。女学校を営むためには、たくさんのお金がかかった。白印さんは自分が描いた絵画を売ったりしながら学校を続けた。その後、一九二八年に現在の宮地に学校が移転してからも校長として残りの人生を女子教育の充実にささげた。

(六年 津田慧人)

龍谷高等学校
(もとの淳和女学校)

